

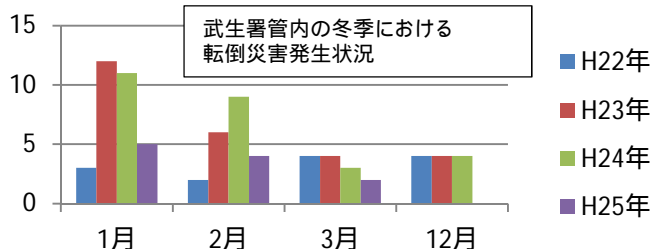
# 冬季間の災害を防ごう！！

## 冬季間の転倒災害の発生状況

冬季は、転倒災害が多く発生します。積雪の少ない年は転倒災害も少ないですが、積雪の多い年は冷え込みも多いため転倒災害が多く発生しています。

今年の長期予報によれば、平年より気温の低い日が多く、積雪も多い予報が出されていますので、転倒災害の多発が懸念されます。

本格的な積雪・凍結等が発生する前に、転倒防止対策を講じて下さい。



## ”つるつる路面”はどうしてできるのか？



降り積もった雪が踏み固められて圧雪や氷となる。

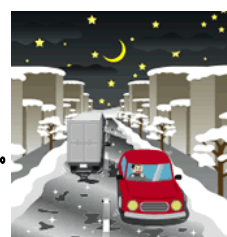
日中、日が差し、気温の上昇や太陽の光などで雪が溶ける。

夕方や夜になって気温が下がると、融けた雪や水が再び凍結し、“つるつる路面”となる。

この“つるつる路面”の上に新雪が積もると、凍っている路面が解りにくくなり転倒しやすくなる。

新雪のみのときは、滑らない。

雪解けや降雨の水がある際に気温が下がると、アスファルトやコンクリートの表面が凍結する。



## 滑りやすい場所が、どんな場所かを理解しよう！

凍結しやすい場所は、こんな場所

### 車の出入りのある歩道

事業場(店舗)などの駐車場の出入り口など、車の出入りが多くある歩道は、雪が車のタイヤに踏まれ固くなりやすく、更にタイヤの摩擦で磨かれるため非常に滑りやすくなる。

除雪のしきりある場所としない内場所との境目も、溶けた雪と固まった雪などで滑りやすくなります。

また、除雪による段差や踏み固められた場所との段差により、足を捻ったり、転倒したりすることがあります。

### 横断歩道

横断歩道は車と人が多く通る場所であるため、雪が踏み固められるとともに、走っている車や停まっている車の熱で雪の表面が溶けやすくなっている。

横断歩道上の車道と歩道の境目や、中央分離帯と横断歩道の境目は傾斜が変化したり、段差が出来ることがある。

横断歩道の白線部は、通常の舗装部分と違って水が溶け込まないため、薄い氷膜が出来やすく、想像以上に滑ることがあるので、なるべく白線上は歩かない。

### バスやタクシーの乗降場所

バスやタクシーの乗降場所は、人や車で踏み固められ滑りやすいことがあります。

上記以外の場所においても、人通りが多い場所は雪が踏み固められて滑りやすくなります。

### タイル張りの建物や玄関の出入り口

雪道や降雨の中を歩いた後に、タイル張りの建物の中に入る時やタイル張りの玄関先では、靴の裏に付いた雪や水で滑ることがあります。

靴の裏の溝には、雪が挟まっていることが多く、凍結していることもあります。

建物内に入る際は、平地の安全な場所で靴の裏の雪をよく落としてから入るようにしましょう。



雪に慣れた人でも、凍結している場所や除雪直後の場所等は大変滑りやすいので注意が必要です。



武生労働基準監督署

## 転びやすい行動 「こんな行動、していませんか？」 注意が必要です

### 急ぎ足で歩く・走る

急いでいると、足下への注意力が散漫になり転びやすくなります。また、転んだ際の衝撃も大きくなり怪我の程度が大きくなることがあります。冬は、急がず・焦らず、余裕をもった行動が必要です。また、歩行だけでなく、急ぎ・焦りの行動は、自動車の運転の際にも交通事故の原因となりますので余裕のある行動をとるようにしましょう。

### ポケットに手を入れて歩く

ポケットに手を入れていると、急な動きに反応出来ないため、転んだときに手をついたり出来ず、頭部を打ったりすることがあります。また、歩く姿勢が前屈みになり更に転びやすくなります。冬は手袋等を着用し、両手を出して歩くようにしましょう。

### 両手に荷物を持つ

両手に荷物を持って歩いている時は、両手がふさがっているため、反射的に体を守れないことが多く、大きな怪我になることがあります。なるべく両手がふさがらないようにしてください。

### 携帯電話を使いながら歩く

携帯電話で話に夢中になったり、携帯電話の画面を見ながら歩いていると、周囲や足下への注意力が低下し転倒する可能性が高くなります。携帯電話を使用する時は歩行を止め、通話等が終わってから歩行するようにしましょう。

### 雪道に適さない靴で歩く

溝のない靴やヒールの高い靴は滑りやすく転倒の原因となります。また、靴の底全体が厚い靴も足を捻ったり、つまづいたりする原因となります。冬季は、滑りにくい冬季用の靴を選ぶようにしましょう。

注) 冬季用の靴によっては、自動車の運転に支障が出る場合もありますので、自動車運転時は、運転のしやすい靴に履き替えることも必要です。



### 滑りにくい靴とは？

**(深い溝のある底)** 深いギザギザ模様の溝がついている靴底はグリップ力が強く滑りにくくなっています。

**注意:** 溝に雪が詰まると滑りやすくなります。

**(柔らかいゴム底)** 柔らかいゴムを使った靴底は、路面に対する接着力が強いので滑りにくくなっています。

**(滑り止め材入りのゴム底)** 滑り止め材の混ざっている靴底は、ヤスリのように路面をひっかくので滑りにくくなっています。



### 滑りにくい歩き方とは？

#### (小さな歩幅である)

歩幅が大きいと足を高く上げなければならないため、重心移動(体の揺れ)が大きくなり転倒しやすくなります。細い道を歩くときは、自然に両足の左右の幅が狭くなりますが、左右の幅が適度(約20cm)に離れているほうが転倒しにくくなります。

#### (靴の裏全体をつけて歩く)

雪道を歩くときは、重心を前におき、できるだけ足の裏全体を路面につける気持ちで歩く。ツルツル路面では、小さな歩幅で、足の裏全体をつけて歩く「すり足」が有効です。

#### (急がず、焦らず、ゆっくり歩く)

滑りにくい歩き方を理解しても、急いでいる時は忘れがちです。冬季はいつも以上に「急がず焦らず」に歩きましょう。



### 冬季の交通事故防止

**(冬用タイヤの使用)** 冬季の積雪がある時や凍結しているときは、積雪路や凍結路の摩擦係数が低い路面で、普通のタイヤに比べて制動力や駆動力をより多く路面に伝える工夫がされたスタッドレスタイヤ等の冬用タイヤの使用が有効です。雪が降ってからではなく早めの交換をして、雪に備えましょう。

注意:)スタッドレスタイヤは、ゴムの柔らかさにより制動力を高めているものですので、製造してから年数が経過するとゴムが硬化し性能が発揮できない場合があります。必ず製造年を確認し、長期に使用している場合は交換を検討してください。

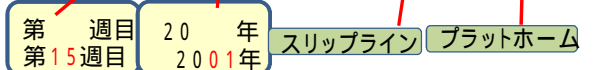
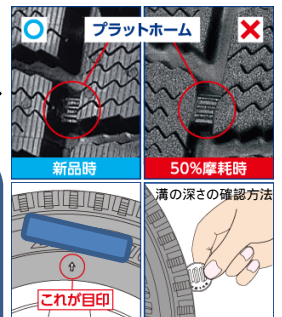
なお、スタッドレスタイヤの溝には、「スリップサイン」のほか滑り止め装置の限界を示すサイン(プラットホーム)がありますので、プラットホームが見えた際は、スタッドレスタイヤとしての性能が発揮できませんので交換が必要になります。

#### (ABS装置の活用)

急ブレーキなどの際に、タイヤがロック状態になるのを防止する装置です。緊急の際は、力強く踏み込んでABS装置を作動させ危険を回避して下さい。

#### (安全な運転方法)

通常の運転の場合も同様ですが、「急」の付く運転「急発進」・「急ブレーキ」・「急ハンドル」をせず、ゆとりをもった運転を心がけて下さい。



第15週目 20年 2001年